

安全データシート (SDS)

作成日 2000年 1月 7日
改定日 2022年 5月 20日

1. 製品及び会社情報

製品名 : デオライトSP

会社名 : 和協化学工業株式会社
住 所 : 大阪府堺市美原区多治井631
担当部門 : 技術部
電話番号 : 072-361-5735
FAX 番号 : 072-361-3658
主な用途 : トイレ尿石除去剤、カルシウムスケール除去剤

整理番号 1042

2. 危険有害性の要約

GHS分類 : 皮膚腐食性/刺激性 : 区分1B
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
急性毒性 (経口) : 区分4
急性毒性 (吸入: 気体) : 区分3
呼吸器感作性 : 区分1
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分1 (呼吸器系)
特定標記臓器毒性 (反復ばく露) : 区分1 (歯、呼吸器系)
水生環境有害性 (急性) : 区分2

上記に記載のない有害性は「区分に該当しない」又は「分類できない」

GHSラベル要素:



危険

危険有害性情報 : 重篤な皮膚の薬傷
重篤な眼の損傷
飲み込むと有害
吸入すると喘息、呼吸困難を起こす
臓器の障害(呼吸器系)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (歯、呼吸器系)
水生生物に毒性

注意書き

安全対策 : 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護マスクなどを着用する
換気設備のある場所あるいは換気の良い場所で使用すること
ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと
製品使用時に飲食や喫煙をしないこと
取扱後は良く手を洗うこと

応急措置 : 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。直ちに医師の処置を受ける。
眼に入った場合 : 直ちに水で数分間注意深く洗う。眼科医の処置を受ける。
皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を脱ぐ。皮膚を流水で洗う
吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

- 保管 : 容器を密閉して換気の良い場所に保管する。
 施錠して保管する
- 廃棄 : 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に委託処理する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物 (塩化水素、腐食抑制剤、水等)

化学名	塩化水素	腐食抑制剤等	水
含有量	22%	非開示	残量
化学式	HCl	非開示	H ₂ O
官報公示整理番号	化審法 (1)-215	非開示	—
CAS No.	7647-01-0	非開示	7732-18-5

4. 応急処置

- 目に入った場合 : 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼した後、速やかに眼科医の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染した衣服、靴などは脱ぐと同時に、直ちに多量の流水でぬるぬるした感じが無くなるまで洗い流す。
 外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は直ちに医師の手当てを受ける。
- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し安静にさせ、医師の手当てを受ける
- 飲み込んだ場合 : 口腔内を水ですすぎ、大量の水を飲ませた後、直ちに医師の手当てを受ける。
 この場合、無理に吐かせようとしてはならない。

5. 火災時の処置

- 消火剤 : 本品は不燃性なので、周辺火災に適した消火剤を用いる。
- 火災時特有の危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒュームが発生するため、消火の際は煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。
 移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い有毒ガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 屋内の場合は作業が終了するまで十分に換気を行う。
 漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には必ず保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないよう注意する。
 汚染された排水が適切に処理されずに環境に排出されないよう注意する。
- 回収方法 : 土砂などに吸着させて取り除くか、又はある程度水で希釈した後、消石灰、ソーダ灰等で中和し 多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
- 直接人体に接触しないように保護眼鏡、ゴム手袋等の適切な保護具を着用する。
 - 作業場所の換気を十分に行う。
- 取扱注意事項
- 液が飛散しないよう注意深く取り扱う。
 - 洗浄処理中は処理箇所顔に顔を近づけない。

- ・ ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと
- ・ 金属やコンクリート面に液が付着した場合は、放置しないで直ちに拭き取る。
- ・ 塩素系の薬剤と絶対混合してはならない（有毒ガス発生）
- ・ 使用中は喫煙、飲食をしてはならない
- ・ 取り扱い後は手や顔をよく洗い うがいをする

保管

- 適切な保管条件
- ・ 直射日光を避け、換気の良い暗所に密閉して保管する。
 - ・ 施錠して保管すること。
- 注意事項
- ・ アルカリ性や、塩素系薬剤と離して保管する。
 - ・ 医薬用外劇物なので他毒劇物取締法に定める基準に従う。
(保管場所への施錠、医薬用外劇物の表示等)
- 安全な包装容器材料 : ポリエチレン

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 : <塩化水素> 日本産業衛生学会 最大 5ppm、 7.5 mg/m³

保護具 : 呼吸器の保護具 : 保護マスク
 手の保護具 : ゴム手袋など 不浸透性保護手袋
 目の保護具 : 側板付き、又はゴーグル型保護眼鏡
 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣、長靴等

9. 物理及び化学的性質

外観等 : 淡黄緑色液体
 臭い : やや刺激臭（塩酸臭）あり
 沸点 : 約108℃
 可燃性 : データーなし
 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : データーなし
 引火点 : データーなし
 自然発火点 : データーなし
 分解温度 : データーなし
 pH : 0.5以下（強酸性）
 動粘性率 : データーなし
 溶解度 : 水に易溶
 蒸気圧 : データーなし
 比重（相対密度） : 1.06±0.03（20℃）
 粒子特性 : データーなし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 加熱により塩化重水素ガスが発生する。
 危険有害反応可能性 : ・ 塩素系薬剤と混合すると有毒な塩素ガスを発生する。
 ・ アルカリと接触すると、反応して発熱する
 ・ 金属やコンクリートに対し腐食性がある
 避けるべき条件 : 高温、直射日光、混触危険物質との接触、
 混触危険有害物質 : 塩素剤、強アルカリ、金属類

1 1. 有害性情報

(本品のデータはないので塩化水素の情報を記載する)

- 急性毒性 : 経口 ウサギ LD₅₀ : 900mg/kg
吸入 ラット LD₅₀ : 7400mg/m³/30M (急性肺水腫)
皮膚腐食性・刺激性 : 皮膚刺激 ヒト 4%/24hr 軽度
皮膚付着を放置すると潰瘍や熱傷を起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 眼に入ると眼が刺激され、視力障害を起こすことがある
生殖細胞変異原性 : データーなし
発がん性 : ヒトに対する発がん性については分類できない
生殖毒性 : データーなし
特定標記臓器毒性・単回暴露 : 吸入すると咳き、息切れなどの気道刺激症状が起こる可能性がある。
特定標記臓器毒性・反復暴露 : <塩化水素>区分1 (歯、呼吸器系)
誤えん有害性 : データーなし
-

1 2. 環境影響情報

- 魚毒性 : 強酸のため水生生物に有害な影響を与える可能性がある。
残留性/分解性 : データーなし
生体蓄積性 : データーなし
土壤中の移動性 : データーなし
オゾン層への有害性 : データーなし
-

1 3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 水を加えて希薄な水溶液とし、消石灰や苛性ソーダーなどで中和した後、大量の水で希釈して排水する。中和する際は 激しく発熱することがあるので注意する。この際環境への直接の排出はさけること
または都道府県知事の許可を得た 廃棄物処理業者に委託処理する。
空容器 : 内容物を完全に除去した後に処分する。
-

1 4. 輸送上の注意

- 国連番号 : 1789
国連分類 : クラス 8 (腐食性物質)
容器等級 : II

国内規則

- 船舶安全法 : 危険物規則第3条 危険物告示別表第1 腐食性物質
航空法 : 施行規則第194条 危険物告示別表第1 腐食性物質
国連分類 : クラス 8 (腐食性物質)

- 注意事項 : 輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
-

1 5. 主な適用法令

- 毒物及び劇物的取締法 : 令第2条 劇物
労働安全衛生法 : 令第18条の2 名称などを通知すべき有害物
特化則 第3類物質

船舶安全法 : 危険物規則第3条 危険物告示別表第1 腐食性物質
航空法 : 施行規則第194条 危険物告示別表第1 腐食性物質
化学物質管理促進法 (PRTR法) : 非該当
消 防 法 : 非該当

16. その他の情報

参考文献

GHSモデルMSDS情報 (中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP)
GHS分類結果データベース (独立行政法人 製品評価技術基盤機構 HP)
GHS分類マニュアル (GHS関係省庁連絡会議編)
GHS対応による混合物 (化学物質) のMSDS作成手法の研修テキスト (改訂版)
(中央労働災害防止協会)

J I S Z 7 2 5 3 (2 0 1 9)
J I S Z 7 2 5 2 (2 0 1 9)

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、安全を確保するための参考情報であり、いかなる保証をなすものではありません。

新たな知見により改定する場合があります。

又、記載事項は通常の実施を前提としたものであるため、特別な取扱いをされる場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。